

自己評価表（年長児）

ねらい 「一人ひとりの保育士等職員が、自らの保育を振り返り、取り組んでいることの意味や良さ、効果等を認識することが基盤となり、さらにより良い保育に向けて課題を明確にしていく。」

No.	内 容		5月	12月
1	子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮が来ている。		○	
2	指導計画の作成にあたっては、子どもの発達過程を踏まえ、生活の連続性、季節の変化等を考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定している。		○	
3	指導計画に沿った、見通しを持った保育をしている。		○	
4	子どもの発達や興味に沿った保育内容であり、子どもが意欲的に遊べるよう配慮している。		◎	
5	自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、保育所内外の研修を通じて、必要な知識や技術の修得、維持及び向上に努めている。		○	
6	保育所全体の保育の質の向上を図るため、保育実践や保育内容に関して他の職員と共通理解を図り、協働性を高めている。		○	
7	子ども一人ひとりの理解を深め、受容しようと努めている。	A 子どもの思いを大切にしながら対応している。	◎	
		B 温かい言葉遣いで、穏やかに話している。	◎	
		C 自分の思いを表現する力が十分でない子どもの、気持ちを汲み取っている。	◎	
		D 「早くしなさい」とせかさす言葉や「だめ」「いけません」など、制止や禁止のことばを用いないようにしている。	○	
		E 「できない」「やって」など言う子どもに対して、子どもの状況に応じて対応している。	◎	
		F 子どものサインを見逃さず対応している。	○	
8	全体に気を配りつつ、特に遊びに入れない子どもへの働きかけをしている。		◎	
9	遊びや生活を通して、人間関係が育つように配慮している。	A 子ども同士の関係をより良くする様な、言葉かけをしている。	○	
		B 喧嘩の場面では状況を適切に捉え、双方の思いを大切に対応している。	◎	
		C 年齢に応じた、社会的ルールを身につけるよう配慮している。	○	
		D 子どもが保育士の手伝いをしたり、友だちを助けたり、協力し合う場を設定している。	◎	
10	A 保育士自身が楽しんで保育をしている。(楽しそうな表情ができる)	◎		
	B 環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	○		
11	体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、一人ひとりの子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医の支持や協力の下に適切に対応している。		○	
12	保護者との連携が十分に取れている。	A 一人ひとりの保護者と、子どもの成長の喜びを共有している。	○	
		B 気軽に話しやすい雰囲気作りが来ている。	◎	
		C 保育内容および質問に対して、わかりやすく説明できる。	○	
		D 子育てに関する相談、援助に対応できる。	○	
		E 支援を要する保護者に対して、適切に対応できる。	○	
		F 子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持に留意している。	◎	
13	地域との連携の在り方がわかる。	A 関係機関との連携のとり方を知っている。(民生委員、健康推進課、幼稚園、子育て支援室など)	○	
		B 子育て応援Dayなど、地域の親子を気持ちよく受け入れ、子育ての相談に応じる等、子育て支援ができる。	○	
		C 実習生、ボランティア等の受け入れに際し、適切な助言や情報提供ができる。	○	
目標	集団生活の中で自立的、意欲的に活動し、体験を積み重ねていくことが出来るようにする。			
自己評価	一人ひとりの子どもの育ちを理解し、関わっていくことを大切にしている。子ども主体の活動を心掛け、一緒に共感する。また、保護者に対しても支援できるよう丁寧に対応していく。			